

石塚硝子はどんな会社？

石塚硝子はいつできたの？

石塚硝子がガラスを作り始めたのは約200年前、江戸時代のことです。
 1819年（文政2年）、創業者である石塚岩三郎が今の美濃国土田村（現在の岐阜県可児市）で吹きガラスを作ったのが石塚硝子のはじまりです。岩三郎は、長崎でビードロ（ポルトガル語のガラス）の作り方を学んだのち、土田村で良質なガラス原料であるケイ石を発見したことから、生涯この地でガラスを作りつづけました。
 この頃の日本は江戸の後期、第11代将軍の徳川家斉が国を治め、伊能忠敬、シーボルトらが活躍した時代でした。



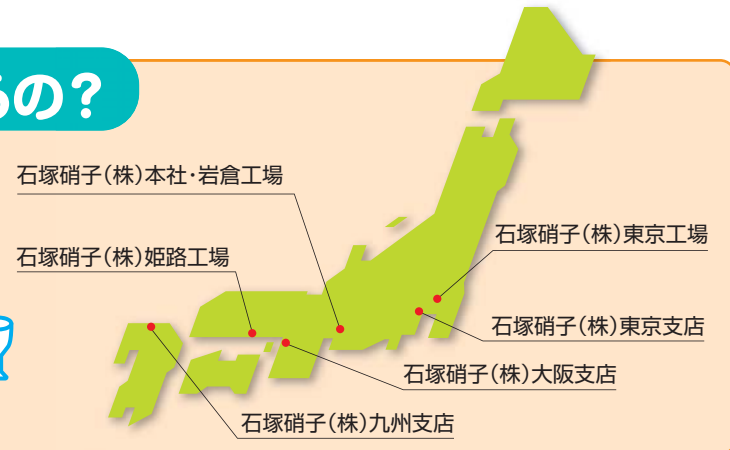
何を作っているの？

石塚硝子は、グループ会社とともにガラスびんやガラス製の食器、ペットボトルや紙パックなどの容器のほか、携帯電話や腕時計のガラスに使用される高強度ガラスなど、くらしに欠かせない身近な製品を作っています。



石塚硝子の工場はどこにあるの？

石塚硝子の工場は、愛知県岩倉市の本社・岩倉工場と、姫路、東京の3ヶ所にあります。これらの工場では、ガラスびんやペットボトルなどさまざまな製品を作っています。また東京や大阪、九州などの大きな都市には支店があります。



石塚硝子 環境への取り組み

ガラスびん工場へようこそ!!



石塚硝子株式会社 ISHIZUKA GLASS CO.,LTD.

本社所在地 〒482-8510 愛知県岩倉市川井町1880番地
 Tel 0587-37-2111(代表) Fax 0587-66-2668
 Web <http://www.ishizuka.co.jp>



このパンフレットは「FSC認証紙」と、揮発性有機溶剤を含まない「VOCゼロ型インキ」を使用し、印刷はアルカリ性現像液を出さず、インプロピルアルコールなどを含む、湿し水が不要な水なし印刷を採用しています。



ISHIZUKA
石塚硝子株式会社

ガラスびん工場へようこそ

石塚硝子は、地球の環境と社会に貢献し地域に調和した工場を目指して、さまざまな取り組みを進めています。暮らしに身近な「ガラスびん」の工場を例に、その取り組みについてご紹介します。



人と環境にやさしいガラスびんを作っています



岩倉工場の広さは15,000㎡、
ナゴヤドームの約3倍!



燃料をガスに変えました

石塚硝子では、地球温暖化対策の取り組みとして、より温室効果ガスの排出の少ない都市ガスへ燃料を切り替えました。



びんを作る設備は、
溶解炉が2基、
成形機が6台も
あります。

ユニバーサルデザインとは、誰にでもわかりやすく使いやすいデザインのことです。石塚硝子では、びんの胴の部分で少しスリムにし程よい凹みを作ることで持ちやすくなり、点字を入れて視覚障害者の方でも中身がわかるようなガラスびんを作っています。



ユニバーサルデザイン

みんなが使いやすいびんを作ります

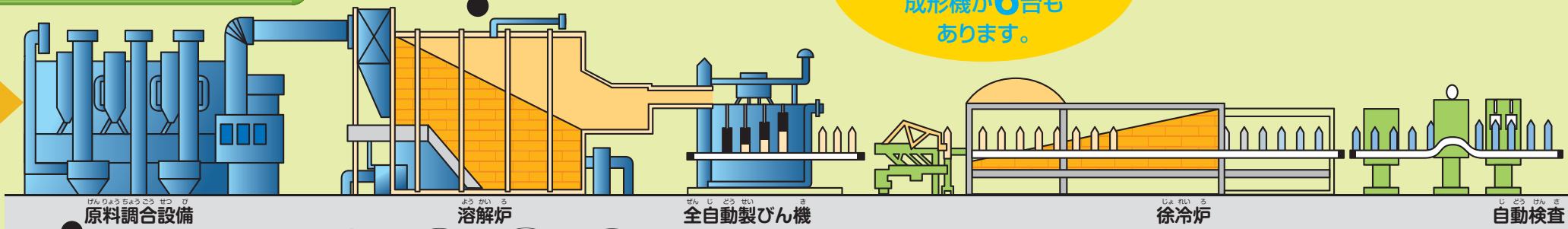
石塚硝子のびんは、社表彫刻(石またはIの文字)と生産時の金型番号マーク、年月マークを付けています。この金型の番号によって、「いつ」「どこで」作られたびんかわかるため、万が一、不良品が発生した場合でも、すばやい対応ができるのです。



びんの刻印のなぞ!?

ここに石やIのマークがついています

ガラスびんの製造工程

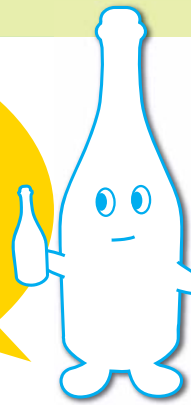


ガラスびん原料の大部分は、あきびんを細かく砕いたカレットです。このカレットにけい砂、石灰石、ソーダ灰などの天然資源を混ぜてかき、形をつくりまします。カレットを使うと原料をとく時間を短くできるため、エネルギー使用量を減らし、温室効果ガスの排出量も少なくすることができます。



あきびんは新しいガラスびんの原料です

一日に作れるガラスびんは、なんと約100万本



軽くて丈夫なびんを作っています

ガラスびんは、リデュース、リユース、リサイクルに取り組む3Rの優等生。中でも「軽量びん」は資源を大切にCO₂の排出を少なくすることで、地球環境への負担を減らします。

- びんの厚みを薄くして軽くしているから「原料を減らす」ことができます
- 原料が減ると「製造時のエネルギーを減らす」ことができます
- びんを「運ぶときの燃料を減らす」ことができます



- 1 キャップをとる
- 2 中をさっとあらう
- 3 あきびん以外をまぜない

リサイクルの約束



ガラスびんは再びガラスびんに生まれ変わります

岩倉工場はこんな取り組みをしています

たくさんのお見学者をお迎えしています

岩倉工場は、財団法人クリーンジャパンセンター「リサイクル教育支援事業」や、EPOC「環境教育講座の見学講座」に登録し、工場近くの小中学校を中心とした環境学習のほか、行政、企業、大学・研究機関、海外からもたくさんのお見学者を受け入れています。ガラスびんのリサイクルについてもっと知っていただくために、これからも工場見学を行います。



みんなで工場のまわりの清掃をしています

岩倉工場では、地域、市民、自治体の皆様と協力し「アダプトプログラム」と呼ばれる道路の清掃活動に参加しています。工場周辺の道路では、ごみ不法投棄が減り、側溝の美化が進むなど、大きな成果をあげています。



ガラスのリサイクルに取り組んでいます

石塚硝子は、1970年代からガラスびんリサイクルに積極的に取り組んでいます。ガラスびんを砕いたものはカレットと呼ばれ、ガラスびんの原料となります。つまり、ガラスびんは何度でも生まれ変わることができるのです。カレットを利用することは、かぎりある資源を大切に、ゴミを減らすことにつながります。

